

FACILITIES

子ども福祉部門

美山児童クラブ
福井市朝谷町1-20（美山小学校横）

上文殊児童クラブ
福井市生部町36-6（上文殊小学校内）

足羽東こども園
福井市東大味町10-1-1

足羽学園
福井市宿布町19-46-1

子ども発達支援センター フレンズあすわ
福井市大和田1丁目1607

フレンズみゆき
福井市御幸4丁目106-2

フレンズどれみ
吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128

障がい者福祉部門

足羽ワークセンター
福井市柁野町20-5

足羽サポートセンター
福井市米松2丁目6-28

パステル
福井市御幸4丁目1806

スマイル
福井市和田東1丁目2105

カラフル
福井市林町62-3

あすわ相談支援事業所リアン
福井市米松2丁目6-28

足羽更生園
福井市宿布町19-46-1

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3
福井市柁野町20-5（代表所在地）

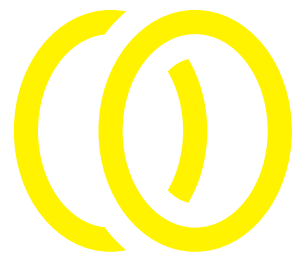
高齢者福祉部門

愛全園
福井市丸山町40-7

足羽利生苑
福井市柁野町20-7

グループホーム美山
福井市美山町6-1

福井大東包括支援センター
（ほやねっと大東）
福井市丸山町40-7 愛全園3F



あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。

社会福祉法人 足羽福祉会
www.asuwafukushikai.jp
TEL.0776-41-3108 FAX.0776-41-3199



あすわ

「生きる」に、伴走し続ける。



ANNUAL REPORT 2025

足羽福祉会 事業報告

MESSAGE

メッセージ

合言葉は「生きるに伴走する」

令和7年度を振り返ると、世の中では国内初の女性首相誕生や大阪・関西万博の賑わい、記録的猛者にクマ被害、コメ不足と価格高騰、トランプ政権による高関税政策や中東政策の混乱での物価高騰など、目まぐるしく変化を感じた1年でした。また社会福祉分野では「2025年問題」が本格化し、サービス需要がピークに達する一方、一般産業との賃金格差が広がり、介護離職や人材不足が一層悪化し、「介護崩壊」の懸念が現実味を帯びてきた1年でもありました。

逆境やピンチの時にこそ、その人の在り方が問われると言います。福祉の先人達が何度も時代の苦難や事業の困難さを乗り越えて、今日の社会福祉につなげて来られたことを思うと、今こそ私たちの存在意義が問われているのだと感じます。

足羽福祉会では第Ⅴ期中期事業計画の3年目として、また前年度までの経営不振を打開すべく、全拠点での目標達成に向けて一丸となって取り組んだ1年でした。会計処理を迅速化し、様々な面で「見える化」を進め、各拠点が稼働目標達成に向けて、PDCAを行いながら取り組んだことで、大幅な収益

増につなげました。また地域社会とのつながりも継続して持ち続け、新たな取り組みにも挑戦し、信頼関係をより深め、一緒に課題解決を図るための様々な取り組みをしました。人材不足に対しては、各拠点で多様な働き方を受け入れながら、利用者様への安心安全なサービス提供体制を維持し、本人の望む暮らしの実現に向けて試行錯誤を続けました。若い世代の職員がキャリア形成に見通しを持てるよう人事管理制度「あすわers」を見直し、次年度からの改正につなげました。中期事業計画の3年間の取り組みを振り返りながら、第Ⅵ期中期事業計画を策定しました。

足羽福祉会は令和9年度に創立60周年を迎えます。どんな困難に遭っても「利用者様と共に」「地域と共に」「職員と共に」「地球と共に」の「4方よし」を未来につなげていくために、私たちの強みでもある「チャレンジする力」「あきらめない力」「つながっていく力」をいっそう高めていきます。

合言葉は「生きるに伴走する」

令和8年5月
理事長 高村昌裕

CONTENTS

01 目次／MESSAGE

03 法人理念／職員行動指針

05 ASUWA2030／第Ⅵ期中期事業計画

07 令和7年度 あすわニュース

08 足羽福祉会 SDGsの取り組み

09 法人概要／決算報告

11 データでみる足羽福祉会

13 事業所報告

子ども福祉部門

15 美山児童クラブ／上文殊児童クラブ

16 足羽東こども園

17 足羽学園

18 子ども発達支援センター
フレンズあすわ／フレンズみゆき／フレンズどれみ

障がい者福祉部門

19 足羽ワークセンター

20 足羽サポートセンター

21 パステル

22 スマイル

23 カラフル

24 あすわ相談支援事業所

25 足羽更生園

26 あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3

高齢者福祉部門

27 愛全園

28 足羽利生苑

29 グループホーム美山

30 福井大東包括支援センター（ほやねっと大東）

Living together, gathering together,
In search of light

法人理念

PHILOSOPHY



法人理念

共に生き、 共に集う、 光を求めて

パーパス | 足羽福祉会の存在意義

だれ一人取り残すことなく、
途切れない支援を行い、
地域社会から生きづらさをなくす。

ミッション | 日々果たすべき使命

仲間と共に、福祉の専門家として
常により良い支援を考え、行い、改善する。
地域と福祉のより良い未来を志向する。

ビジョン | 実現したい未来

共に生きている。
それがふつうの世の中に。



ASUWA 2030

第Ⅴ期中期事業計画 2023～2025ふりかえり

5つの視点	2023(令和5)年度の実績	2024(令和6)年度の実績	2025(令和7)年度の実績	3年後の在りたい姿とその結果	2030年に向けたSDGs目標
1 利用者様と共に	① 尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉に関する学びを深める ➡ 取り組み継続 ② 一人ひとりの想いや願いの適切なアセスメント(着手、見直し) ➡ 取り組み継続 ③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む ➡ サービス実践報告会実施	① 尊厳・権利擁護はじめ本人中心の福祉に関する学びを深める ➡ Eラーニングや第三者等を招いた研修など実施 ② 一人ひとりの想いや願いの適切なアセスメント(着手、見直し) ➡ 各部門で適切なアセスメントづくりを実施 ③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む ➡ 「サービス実践報告会」「あすわのこどもてん」を開催	① 学びをもとに、実践を振り返る仕組みの構築(早めに気づき、検討し、改善する) ➡ 「虐待防止」「主体性の尊重」「意思決定支援」等といったテーマに対して、Eラーニングや勉強会、セルフチェックやアンケート実施といった様々な手法を通して学びを深めた。 ② 種別や部門、年齢等にかかわらず、一人ひとりが居心地の良い居場所作り。 ➡ ライフステージに応じて本人が望む暮らしを実現するためのアセスメントの見直しを行い、それを計画に反映させるよう取り組んだ。 ③ 実現のための話し合いを関係者、チームで取り組む。 ➡ より多くの関係者を集めて本人中心のケース検討の機会を増やし、その中のいくつかの事例をサービス実践報告会にて発表を行った。より支援度の高い利用者様へのチームアプローチが行えており、その一部では本人の夢の実現につながれた事例もあった。	一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとでさまざまなチャレンジがなされ、たくさんの成功事例ができています。 一人ひとりの夢や願いを実現するために、連携のもとで様々なチャレンジがなされ、その一部で成功事例ができています。しかしもっともっとサービスの質を高め、成功事例を増やすために、チャレンジできることがたくさんある。	1 貧困をなくそう 8 持続可能な消費の推進 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを
2 地域と共に	① 関係者を増やし、継続的な話し合いを通じた地域課題の共有 ➡ 取り組み継続 ② 地域住民の目線で課題解決に向けた取り組み ➡ 取り組み継続 ③ 災害時における法人の役割を発揮できる体制整備 ➡ 取り組み継続	① 関係者を増やし、継続的な話し合いを通じた地域課題の共有 ➡ 地域の会議やイベント参加、配食サービス、セミナー開催 ② 災害時における法人の役割を発揮できる体制整備 ➡ 福井DWAT、福祉避難所登録、個別避難計画対応訓練実施	① 地域住民の目線で課題解決に取り組む、共同による成功事例を創出し、発信。 ➡ 大学との協業による、社会に福祉の価値を広めるツールとしての「福祉かるた」作成サポートや福井刑務所視察研修を企画するなど、広い視野で地域課題を考える機会を作った。第12回足羽川ふれあいマラソンは参加者も増え、ランナーやボランティアからの好評をえつつ、地域住民の理解も浸透してきている。 ② 地域住民と共に災害時の福祉避難所対応訓練の実施。 ➡ 地域関係者と災害時の対応についての協議を継続的に持っているが、具体的な協体制や要援護者を対象とした避難訓練はできていない状況。	地域の課題に対して協働して取り組み、地域からなくてはならないパートナーとして認識されている。 地域とのつながりを様々な形で深めている段階で、地域課題への具体的な取組みは限定的。地域からなくてはならないパートナーとして認識されるためにできることがまだある。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくばない、減らす、再利用する 13 気候変動に具体的な対策を 17 持続可能なパートナーシップを促す
3 職員と共に	① 確保:ブランディング推進のもと、法人に共感する人材の確保 ➡ CM放送開始 ② 育成:研修プログラムの定着で学びやサービスクオリティ等の向上 ➡ 取り組み継続 ③ 定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率改善 ➡ ICTインフラ整備	① 確保:ブランディング推進のもと、法人に共感する人材の確保 ➡ 法人のPMV効果による採用、中途採用求人サイトの活用 ② 育成:研修プログラムの定着で学びやサービスクオリティ等の向上 ➡ Web受講による研修受講率UP ③ 定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率改善 ➡ 業務効率向上にて超過勤務減、有休取得日数増加	① 確保:ブランディング推進、DE&I推進により、多様な人材が確保できる採用計画の構築と運用。 ➡ SNS発信や実習受入れを積極的に行ったものの、採用はこれまでになく苦戦した。確保の新たな手法としてスポットワークを導入し、主に副業を希望する働き手のニーズに対応することで、一定の不足解消につなげた。 ② 育成:一人ひとりの能力向上による、高い労働生産性の発揮。 ➡ 職員の個別育成に注力したが人的余裕のなさから課題が残った。職員一人ひとりの成長機会の創出や育成のための組織的アプローチを確立する必要がある。 ③ 定着:職員満足度調査などを基にした職場環境、業務効率の改善(ICT・介護ロボ等活用、経営ガバナンス強化など) ➡ 事務業務のICT活用が進み、ペーパーレス化に積極的に取り組む拠点が増え、年間の超過勤務時間は削減し、退職者数も前年度比で減少している。また職場のチーム力を高める取り組みとして人事管理制度の見直しを行い、次年度改正につなげた。	働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった!と実感できている。 働きがいと働きやすさの実現により、ここがよかった!と実感できている職員が多いとは言えず、働きがいと報われる仕組み、職員が支え合い、チーム力が向上し、職場へのエンゲージメントが高まるための取組みがもっと必要。	3 健康な生活を実践しよう 4 働きがいと働きやすさを増やそう 5 性別平等を実現しよう 8 持続可能な消費の推進
4 地球と共に	① 法人内電球の全LED化 ➡ ほぼ完了 ② 既存車両のリース契約への切替検討(助成車輻除く)し、新たな車両のEV、PHVまたはHV車への切替を推進 ➡ 次年度へ ③ 有機廃棄物の堆肥化に向けた取り組み ➡ 農業をととした循環型事業モデルの継続	① 電球LED化、太陽光発電、EV・HV車 ➡ ほぼすべての拠点でLED化、EV・HV公用車を導入 ② 農業をととした循環型事業モデル ➡ 農福事業本格化、有機栽培、生産量増と販路拡大 ③ SDGsの取り組み発信 ➡ SDGsをテーマとした「あすわのこどもてん」開催	① 法人内電球の全LED化を継続し、新たな施設整備は太陽光発電を導入。新たな車両はEVまたはHV車を導入。 ➡ 電力会社の契約をクリーンエネルギー由来(=CO2排出ゼロ)に切り替えたことで、光熱費の増減に関わらず、法人としてのCO2排出量が約5分の1まで減った。 ② 農業をととした循環型事業モデルの取り組み等、各拠点で具体的な目標設定をの取り組み。 ➡ 農福事業が徐々に本格化する中、有機廃棄物の堆肥化施設の整備を行ったが、廃棄物の収集方法などに課題があり、循環型モデルとしての確立には至らなかった。 ③ 法人におけるSDGsの取り組みを発信する。 ➡ 子ども部門では、子ども自身を通じたSDGsの取り組みが日常的に増え、それらをSNSやドキュメンテーションで取り上げ、上手く発信できた。一方、他の拠点では発信の頻度やアピールの仕方に課題が残った。	CO2排出の削減が進み、循環型事業モデルに取り組んでいる。 CO2排出の削減が進み、循環型事業モデル確立に取り組んでいる最中で、継続して前進させていく必要がある。	12 つくばない、減らす、再利用する 13 気候変動に具体的な対策を
5 経営基盤の安定化	① 法人ブランディングの推進 ➡ 新シンボルマーク・ロゴによる広報ツール整備完了 ② 適正人員配置とサービス内容充実により、全事業で稼働目標達成 ➡ 取り組み継続 ③ KPIによる成果の見える化など管理職のマネジメント力強化 ➡ 取り組み継続	① 法人ブランディングの推進 ➡ SNSにて一定の採用確保、学校説明会、セミナー開催 ② 適正人員配置とサービス内容充実により、全事業で稼働目標達成 ➡ 全体としてサービス活動増減差額は多少改善 ③ KPIによる成果の見える化など管理職のマネジメント力強化 ➡ 業績評価基準を明確化。経営指標の「見える化」を共有	① 収入確保への取り組み強化(利用者様確保、稼働目標の明確化と進捗管理) ➡ ニーズへの対応を行いながら目標達成に向けた取り組み、結果の共有と対策の実施を行ったことで、サービス活動収益は保育、児童福祉、障がい福祉サービス、介護保険の各事業で前年度比で大幅に向上した。 ② 支出の適正化(人材の適正配置、経費の適正等)による収支差額の目標達成。 ➡ 人件費率が全国平均並みまで下がったことや、経費削減への各拠点の取り組み等によって費用が減少し、経常増減差額は黒字の結果となった。 ③ マネジメント力強化による組織生産性向上の取り組み。 ➡ 月次決算を早期化し、結果をもとに対策を考える習慣が定着。実績の「見える化」、そして組織内への共有化により、労働生産性の改善につながった。	さまざまな経営改善の取り組みにより、持続可能な収支差額が計上できています。 さまざまな経営改善の取り組みにより、持続可能な収支差額が常に計上できるよう今後も研鑽が必要。	

さあ、やってみよう!

私たちの仕事を少しでもよりよくしていくためには、失敗や変化をおそれずにチャレンジすることが大切です。思いが行動に、行動が習慣になると何かが変わります。一人のチャレンジがみんなのチャレンジに、夢や目標が現実になります。そのための第一歩が「さあ、やってみよう!」です。

ASUWA NEWS 2025

令和7年度
あすわニュース

令和7年度も、足羽福祉会はさまざまな取り組みを通じて、地域とのつながりを深めてきました。秋の「あすわ祭り」や5回目を迎えた「〇展」、今年で第12回を数える「足羽川ふれあいマラソン」など、職員・利用者・地域の方々が一体となったイベントを実施。また、福井大学とのPBL連携から生まれた「福祉かるた」や、地域公民館と地域コミュニティが協働した写真展など、福祉の魅力を社会に広く伝える新たな挑戦も続いています。



NEWS
1

第12回 足羽川ふれあいマラソン開催！

2025年11月16日（日）、当法人主催「第12回足羽川ふれあいマラソン」が開催されました。イベントを通じたボランティア体験の機会によって福祉への理解を広げる目的で、多くの方々のご協力のもと、今回も幅広い種目に全国各地からたくさんの方々が集まりました。フィニッシュ後のぜんざいサービスでは、社会福祉法人つぐみ福祉会様のご協力もいただきました。今後も改善を重ねてよりよい大会を目指してまいります。



NEWS
2

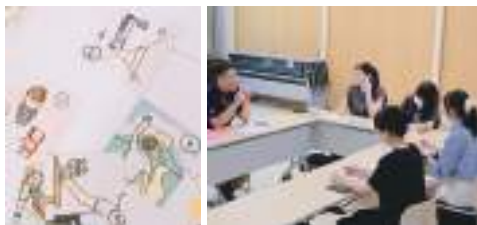
あすわ祭り開催

秋風が心地よく吹く10月16日、足羽利生苑駐車場にて部門合同のお祭りを開催しました。会場にはたくさんの屋台が並び、地域の活動団体による出し物に加え、今回は新たな取り組みとして事業所ごとの出し物も披露されました。利用者の皆さま、職員、そして地域の方々が一体となり、笑顔あふれる賑やかな一日となりました。ご来場いただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。

NEWS
3

学生チームが挑んだ2年間の取り組み ～福井大学PBL×足羽福祉会～

福井大学の課題探究プロジェクトPBL(Project Based Learning)に協力させていただき、課題解決に取り組んでいただきました。2年間の集大成として「福祉のイメージを良くしたい!!」という思いから、遊びの中で福祉の良さを知ることができる「福祉かるた」の制作に着手され、過程の中で法人職員の声を参考していただくなど、協力しながら素晴らしいものが完成しました。



NEWS
4

〇展2025 ～ありがとう、これからも～

2025年12月10日より12月14日まで、5日間にわたり開催いたしました「〇展（えんてん）」は、皆様のおかげをもちまして、盛況のうちに無事閉幕いたしました。今回のタイトル「ありがとう、これからも」に込めた思いのとおり、会期中は連日100名を超える大変多くの方々にご来場いただきました。障がい者アートに対する関心の高さと、皆様からの温かいご支援を肌で感じ、深く感謝申し上げます。本展は2017年から数えて5回目の開催となりました。皆様からの温かい励ましのお言葉を胸に、今後も障がい者アートの振興に努めてまいります。



NEWS
5

啓蒙地区 写真展を開催！

高齢者福祉施設「愛全園」ではコミュニティーホールを地域に開放しています。そしてこの度、「啓蒙公民館」と写真展活動コミュニティー「僕らの写真展」との共同企画で「文化継承」をテーマとした「写真展」を開催しました。世代を問わず、来場者が語り合う様子を見て、写真が「記録」を超えて「つながり」を生む力を持つことを実感しました。人と人、福祉と地域をつなぐきっかけとして、今後もこうした取り組みを続けていきたいと思っています。



SDGs取り組み報告 令和7年度 SDGsアワード

法人が進めている「地球と共に」のもと、SDGsに深く取り組んだ職員2名、グループⅠ組、団体Ⅰ組が令和7年10月1日法人創立記念式典で表彰されました。



あすわ第3 小林 美乃

利用者様と共に学ぶSDGs

節電、節水など暮らしの中でできるSDGsに着目し、利用者様も共に学ぶ機会を設けるなどの取り組みを行いました。また、日常分別されたごみがどのように生まれ変わるのかを学ぶために、リサイクルセンターへの工場見学を企画し実施につなげました。



愛全園 宇野 彰

『もったいない』を徹底する取り組み

業務支援職として施設営繕にあたる中で、使用不可となった電気製品や器具備品類をすべて処分せず、使える部分を保管し、工夫してリユースする取り組みを徹底しています。経費節減につながるだけでなく、モノを大切にする意識の醸成、次世代への技術継承といった大事な役目を果たされました。



足羽東こども園 こども展出品クラス 平泉 直子・渡邊 菜摘・藤尾 知代

こどもたちと職員で取り組むSDGs

SDGsについて、こども達にわかりやすく伝え、自然素材や身近な素材を使っでの製作物や廃材工作を楽しみながら積極的に行いました。また、取り組み内容をおたより等で情報発信したり、こども達の作品を「あすわのこども展」に出品したりしました。



法人本部

コピー枚数削減 前年度比22%

環境負荷軽減を目標に、SDGs啓発とICT活用により大幅なペーパーレス化を実現できました。各会議や研修において、紙資料をなくしタブレット端末を使用することで段階的に電子化し、大幅なコピー枚数削減を達成しました。また、職員のICT活用の意識付けにもつながりました。



FINANCIAL REPORT

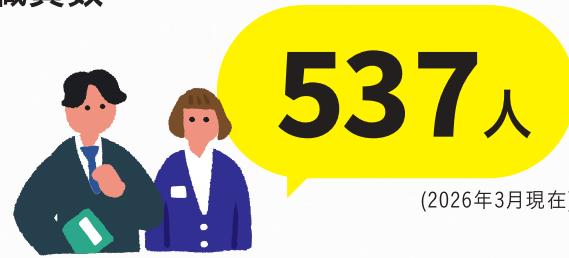
法人概要／決算報告

足羽福祉会は、赤ちゃんからお年寄りまで
安心して利用できる総合福祉事業として、
さまざまな施設やサービスを通して、
地域に開かれた、地域に信頼される福祉を目指しています。

法人概要（令和8年4月1日現在）		決算報告	
名 称	社会福祉法人 足羽福祉会	貸借対照表	
		令和8年3月31日現在 （単位：千円）	
所 在 地	〒910-2178 福井県福井市柁野町20-7	流動資産	1,053,912
		固定資産	2,846,437
事 業 内 容	第一種・ 第二種社会福祉事業（保育・障害・高齢）・ 公益事業	資産合計	3,900,349
		流動負債	417,140
理 事	理事長 …………… 高村 昌裕 常務理事 …………… 嶋田 富士男 理事 …………… 中尾 亨 理事 …………… 中村 まゆみ 理事 …………… 山形 裕之 理事 …………… 永松 真 理事 …………… 坂口 昌宏 理事 …………… 吉村 宜利子	固定負債	493,168
		負債の部合計	910,308
職 員 数	543名（正規職員・パート職員）	純資産の部合計	2,990,041
		負債・純資産合計	3,900,349
総 収 入	3,358,581千円（令和7年度実績）	事業活動計算書	
		自令和7年4月1日 至令和8年3月31日 （単位：千円）	
職員満足度 向上の取り組み	社員ファースト企業認定（福井県） 子育てファミリー応援企業認定（福井市） ふくい女性活躍推進企業＋登録（福井県） 職員健康づくり宣言（協会けんぽ） 経営デザイン認証 ランクアップ認証 （経営品質協議会）	サービス活動収益計①	3,320,943
		サービス活動費用計②	3,242,708
		サービス活動増減差額③＝①－②	78,235
		サービス活動外収益計④	15,463
		サービス活動外費用計⑤	3,785
		サービス活動外増減差額⑥＝④－⑤	11,678
		経常増減差額⑦＝③＋⑥	89,913
		特別収益計⑧	22,175
		特別費用計⑨	21,937
		特別増減差額⑩＝⑧－⑨	237
		当期活動増減差額⑪＝⑦＋⑩	90,151
		前期繰越活動増減差額⑫	2,004,482
		当期末繰越活動増減差額⑬＝⑪＋⑫	2,094,633
		その他の積立金取崩額⑭	0
		その他の積立金積立額⑮	20,000
		次期繰越活動増減差額⑯＝⑬＋⑭－⑮	2,074,633

データで見る! 足羽福祉会の

職員数



令和7年度

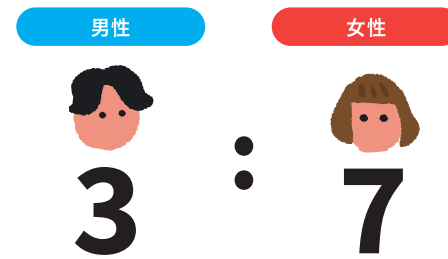
データで見る! 足羽福祉会

(2025年度実績)

Look at the data of Asuwa Welfare Association

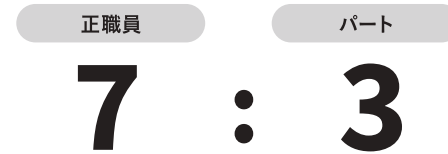
データで見る! 足羽福祉会の

男女比



データで見る! 足羽福祉会の

正職パート比率



データで見る! 足羽福祉会の

実習・インターンシップ・ボランティア 受入人数



データで見る! 足羽福祉会の

月平均残業時間



データで見る! 足羽福祉会の

離職率



データで見る! 足羽福祉会の

有給休暇 取得率



データで見る! 足羽福祉会の

育休取得率



データで見る! 足羽福祉会の

展開事業におけるSDGs関連項目



データで見る! 足羽福祉会の

障がい者雇用率



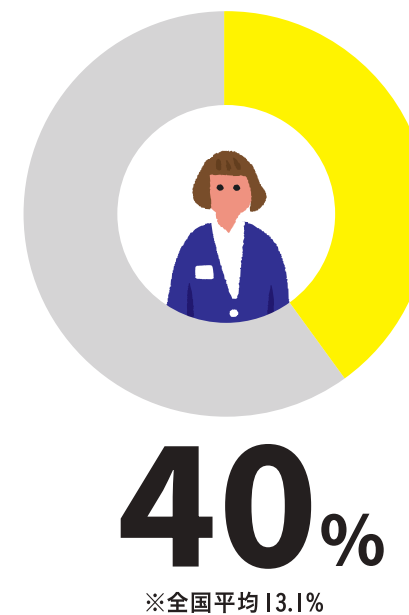
データで見る! 足羽福祉会の

外国人雇用者数・ 留学生受入数



データで見る! 足羽福祉会の

女性管理職割合



データで見る! 足羽福祉会の

資格取得者数



データで見る! 足羽福祉会の

事業数



FACILITY REPORT

事業所報告



子ども福祉部門

一つひとつの未来、
つないでいきます。

あつという間に過ぎる「子どもたちの今」。そんな大事な時間を共に過ごす私たちは、遊びや学びを通して、やさしく、ちから強く、児童一人ひとりの「らしさ」を引き出すために、ご家族や関係機関と連携しながら支援を続けています。

美山児童クラブ／上文殊児童クラブ

- 放課後児童クラブ

足羽東こども園

- 幼保連携型認定こども園

足羽学園

- 福祉型障がい児入所施設
- 短期入所

子ども発達支援センター フレンズあすわ

- 児童発達支援
- 放課後等デイサービス
- 保育所等訪問支援
- 短期入所
- 地域障害児支援体制強化事業

フレンズみゆき／フレンズどれみ

- 放課後等デイサービス

障がい者福祉部門

思いに、悩みに、喜びに、夢に、
向き合っていく。

利用者様それぞれが持つ「ちから」に気づき、引き出し、輝かせること。地域に暮らし、社会の一員として人生を自分らしく楽しむための支援をすること。私たちは、地域社会との交流を通して利用者様一人ひとりが望む暮らしの実現に取り組んでいます。

足羽ワークセンター

- 就労継続支援B型

足羽サポートセンター

- 就労継続支援B型

パステル

- 自立訓練（生活訓練）
- 就労移行支援
- 就労定着支援

スマイル

- 生活介護

カラフル

- 生活介護
- 共生型生活介護

あすわ相談支援事業所リアン

- 計画相談支援
- 障がい児相談支援
- 地域移行／地域定着支援

足羽更生園

- 施設入所支援
- 生活介護
- 短期入所
- 日中一時支援

あすわ第1／あすわ第2／あすわ第3

- 共同生活援助
- 短期入所

高齢者福祉部門

これからの、
みずみずしい暮らしのために。

長い年月を過ごし、ご家族や社会への責任を果たしてきた高齢者の方々。そんな皆さまといっしょに、若者のように笑い、泣き、語り、遊び、感動したい。親しみのある地域で、これからも新しい思い出をつくっていただけるようお手伝いしていきます。

愛全園

- 特別養護老人ホーム
- 認知症対応型共同生活介護
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援センター

足羽利生苑

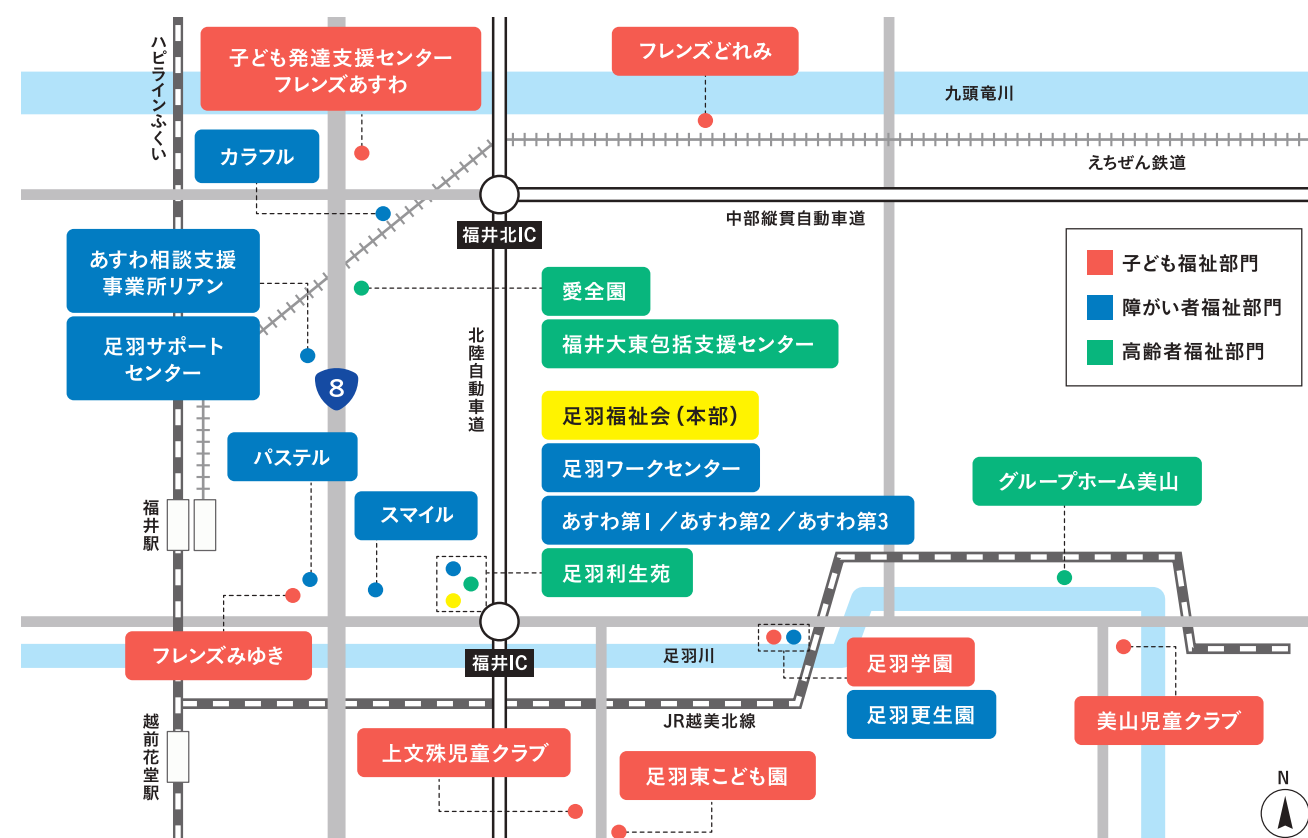
- 特別養護老人ホーム
- 短期入所生活介護
- 通所介護
- 居宅介護支援センター

グループホーム美山

- 認知症対応型共同生活介護
- 小規模多機能型居宅介護
- 共生型生活介護
- 短期入所

福井大東包括支援センター

- （ほやねっと大東）
- 相談支援



美山児童クラブ／ (旧 啓明児童クラブ) 上文殊児童クラブ

美山児童クラブ・上文殊児童クラブは、昼間保護者のいないご家庭の小学生が対象。放課後及び長期学校休業中に児童に安心して過ごしていただきます。遊びなどを通して心身ともに成長できる場を提供することで、保護者の方が安心して勤務できるよう支援いたします。

美山児童クラブ

REPORT

1 「地域」とのつながり

法人内施設のグループホーム美山にてラジオの番組収録があり、子ども達も参加。お年寄りと一緒にDJから教えてもらったラップに合わせて声を出し、楽しんでいました。また、夏休みには同施設の夏祭りにも参加し、ヨーヨー釣りや射的を回り、かき氷やフランクフルトを味わいました。最後は、みんなで「美山音頭」で会場が一つになりました。子ども達にとっても地域のお年寄りにとっても世代を超えた大切な交流でした。



REPORT

2 「なかま」とのつながり

来年度の3小学校の統廃合に向け、当クラブとすぎの子児童クラブが「ポッチャ体験」をしました。混成チームで、初めは少し緊張しましたが、ゲームが始まると自然と声を掛け合いハイタッチで歓声と笑顔につつまれました。地域の協力のもと、来年度につながる時間となりました。また、法人内施設の上文殊児童クラブとの交流では夏休みに水遊びをしました。全身ずぶ濡れになりながら夏ならではの思い出ができました。水鉄砲ではヒートアップしていた高学年もそれぞれの学校の話で盛り上がり、学校が違って自然と子ども達がつながっていく時間でした。



REPORT

3 「次」へつなぐ

足羽福祉会が取り組む「SDGs」について、子ども達と一緒に「リユース・リデュース・リサイクル」をテーマに、遊べる、使える廃材工作に取り組みました。「牛乳パックdeブーメラン」や「牛乳パックdeこま作り」など遊べる工作は、校庭やプレイルームで対戦したりして楽しみました。また、飾って楽しむ工作は、子ども達が工夫をしながらオリジナル作品を作り上げ、友達と一緒に達成感を味わう体験をしました。本来なら、ごみになるモノをもう一度使って楽しみながら作品に変えることは地球にとって優しい行動であると子ども達に伝えることができました。



上文殊児童クラブ

REPORT

1 縦割りの中で 自己発揮できる活動

上文殊児童クラブでは自分たちでアイディアを出し合い、年間の行事や日々の遊びが盛り上がりしました。(ゲーム、運動遊び、伝承遊び等) 特に運動遊びや伝承遊びは低学年は中中学年の姿にあこがれ、やってみたり教えてもらうことで上達する姿が見られています。高学年も低学年に教える中で思いやりの心が育まれています。



REPORT

2 おうちのお仕事・ SDGsへの取り組み

児童と職員で市の出前講座「お家のお仕事シェアしよう」を受講しました。児童は「お家の仕事みえ〜シート」を使いながら家族の仕事を知り、家庭の仕事の多さに気づきました。受講後、保護者から『家族皆で相談して自分ができる役割を決めて行うようにした』との声も聞かれました。児童クラブでも、児童が机を拭いたり、部屋の掃除や整頓など自分ができる範囲での手伝いを積極的に行うようになりました。また、子ども達とゴミの分別や、節電・節水も継続して行っています。



REPORT

3 地域や他拠点との 交流活動

上文殊公民館では「仲良し学級」児童との水遊びを楽しみました。主任児童委員も継続して来園いただき、絵本の読み聞かせ等を通し児童の状況を把握して下さっています。また、足羽福祉会の子ども部門の合同イベント(かけっこ教室)に参加したり、啓明児童クラブとの合同遠足、こども園の園児とのふれあいなど様々な地域や年齢の人と交わり交流を深めました。



DATA

令和8年4月1日現在

美山児童クラブ

事業内容／児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。仕事と子育ての両立支援。
対象利用者／美山小学校に通う児童(1年生～6年生)
所在地／福井市朝谷町1-20(美山小学校横) 管理者／岩本 昌雄

上文殊児童クラブ

事業内容／児童の放課後や学校休業日の生活の場の提供と健全な育成。仕事と子育ての両立支援。
対象利用者／上文殊小学校に通う児童(1年生～6年生 人数26名)
所在地／福井市生部町36番6番 管理者／岩本 昌雄

NEXT STEP

美山児童クラブ

令和8年度には、美山地区3小学校が統合され美山小学校が開校されます。それに合わせて、校区も美山全地区になりますので、啓明児童クラブを「美山児童クラブ」に変更します。場所は変わりませんが、今までより地域が広がりますので、地域交流の活動を定期的実施していきます。新体制になる小学校とも情報共有を行っています。

上文殊児童クラブ

人権・養護面に十分配慮し個々の個性を大切にしながら、保護者が子育てと仕事を両立できるよう支援を行います。小学校や地域と引き続き円滑な情報共有を行いながら、安全で安心な放課後の居場所を提供していきます。また、新たな職員の確保を図り、職員が働きやすい職場を整えていきます。

足羽東こども園

文殊山のふもと、四季折々の自然が感じられる当園。2022年春に竣工した新園舎では「自然活動、交流活動、たてわり活動、楽しい給食、体育活動、健康・安全活動」を掲げ、一人ひとりが自らを発揮し豊かな感性を持った子どもたちが育っています。

REPORT

1 自然の中で自ら体験できる 活動の充実

自然豊かな環境を生かし、戸外活動を積極的に行いました。園庭やお散歩での草花や虫探し、野菜栽培や収穫体験、生き物の飼育、身近な材料を使ったクッキングなど、五感を使った体験は子ども達の想像力を膨らませ、命の大切さへの学びや探求心や思考力の育成につながりました。



REPORT

2 地域や家庭と連携した 安全・安心な教育保育の取り組み

子どもの命を守るだけでなく、保護者の安心や地域との信頼構築に向けた防災、防犯活動に取り組みました。日々の訓練からの反省や疑問点について職員間で話し合い、防災マニュアルの見直しやBCPの作成を行いました。地区防災士との学び合い、地域防災訓練や防犯教室など、地域と連携した活動にも積極的に参加しました。また保護者会と協力し、交通安全チラシの配布や安全看板の設置などを行いました。



REPORT

3 家庭と子育ての楽しさを 分かち合う活動

園児家族や地域の子育て世帯とともに、様々な活動を行いました。子育てセミナーやダンス教室参観で、子どもの体力増進につながる学び合いを行い、夏まつりや祖父母参観では子どもと楽しく遊ぶ楽しさを体験していただきました。また、さまざまな行事にご家族や地域の方をお招きし、子ども達の成長を共有し感動し合うことができました。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／幼保連携型認定こども園(定員 1号:12名/2・3号:130名)

対象利用者／0～5歳児の乳幼児

所在地／福井市東大味町10-1-I

管理者／三上 登美子

NEXT STEP

子ども達が「やってみたい」と自分で考え行動できるような環境を整え、一人ひとりに合った教育保育を提供します。また、職員が安心して働けるようサポート体制の充実や業務改善を促進していきます。SDGsの取り組みとして、子ども達や保護者、職員が協力し「リデュース」「リユース」「リサイクル」を意識した活動や環境教育を継続していきます。

足羽学園

現在、障がいのあるお子様の成長を支える仕組みは増えた一方、社会的擁護や自閉スペクトラム症など専門的支援ニーズは高まっています。私たちは、利用者様が地域で安心して暮らせるよう、ご家族・関係機関と連携しながら一緒に考えていきます。

REPORT 1 『自分を知る・大事にする』 性教育への取り組み

昨年度、職員が学んだ『性教育』について今年度は子どもたちの学びにつなげました。自分が大事にされていることを、快を通して体感してもらうため職員が定期的にハンドマッサージを行いました。また、赤ちゃん人形と今の自分の大きさを比べ、産まれてからの身体の成長を学び、「握手」や「肩を組む」「ハグをする」などで同意を得ることによって自分と他人は違うということを学びました。自分を通して人を知る大事な時間になりました。



REPORT 2 自分で選ぶ・ 自分の好みを知る取り組み

どうしても集団生活の中では共有の物が多い中で、自分の好きな生活用品やおやつを自分で選んで買ってみたいと歯磨き粉や洗濯洗剤、シャンプーなどの購入に出掛けました。初めての時はなかなか決められなかったり、セルフレジに慣れなかったりしましたが経験を積む中で、選ぶこともレジを操作することも自信を持ってできるようになりました。時には好みのものでない時もありましたが、それも良い経験となりました。



REPORT 3 自分たちの取り組みを振り返る

第6回目となる「福祉サービス第三者評価」を、令和7年9月19・22日に受審しました。事業計画や児童を尊重した取り組みについては、おおむね高い評価をいただきました。その反面、サービス内容の定期的な振り返りができていないことやサービス変更時の利用者への説明についての取り組みが弱いとの評価でした。この結果を真摯に受け止め、更なる質の向上を目指し取り組んでいきたいと思います。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／福祉型障がい児入所施設(定員20名) 短期入所支援(定員4名)
対象利用者／18歳までの知的に障がいのある子ども
所在地／福井市宿布町19-46-1
管理者／嶋田 富士男

NEXT STEP

- 『暮らしを整える』をコンセプトに子どもたちの生活環境やライフステージを意識した各年度に応じた生活スキル向上に取り組みます。
- 子どもたちが地域を知る機会として「酒生カルタ」にある地域の様々な場所をめぐるその様子をブログで発信することで地域の理解を深めます。

子ども発達支援センター フレンズあすわ／ フレンズみゆき／フレンズどれみ

幼児期・学齢期のさまざまなライフイベントに保護者の皆様と一緒に取り組んでいます。日々の悩みや課題などにも、ご本人の夢に向かうステップを支援の専門職としてサポートし、関係機関と連携しながら家庭と学校以外の第三の居場所づくりに努めています。

REPORT 1 学び合いで育む支援力の向上 ～4事業による実践の共有～

拠点内の4事業（児童発達支援・放課後等デイサービス3事業）において、約1年にわたりPDCAを重ねながら実践を積み重ねました。その成果と学びを職員会議で共有し、所属部署を越えて事例から学び合う機会を創出しました。利用者様の生活の質の向上にとどまらず、将来のライフステージの変化を見据えた支援の在り方を、組織全体で考える取り組みとなりました。



REPORT 2 地域と共に歩む 児童発達支援センターを目指し

昨年度に引き続き「あすわ児童発達支援センターフェス」として地域交流イベントを開催しました。児童発達支援センターの役割や機能を地域に広く発信するとともに、子どもも大人も気軽に足を運べる場づくりを目指しました。親子で楽しめる体験型企画を通して新たな地域とのつながりが生まれ、センターへの理解が深まる機会となりました。今後も継続開催し、地域に開かれた拠点としての役割を一層高めていきます。



REPORT 3 保護者との連携を支える ICT活用の推進

職員のライフステージの変化に柔軟に対応するとともに、保護者等との連携をより綿密かつシームレスに行うため、補助金を活用してPCなどのハード整備と新規アプリ導入などソフト面の充実を進めました。これを契機に既存業務の棚卸しと見直しを実施し、業務効率化と情報共有の質向上を図りました。今後も検証を重ね、より円滑な連携体制の構築を目指します。



DATA

令和8年4月1日現在

フレンズあすわ
事業内容／①児童発達支援(定員12名) ②放課後等デイサービス(定員10名) ③保育所等訪問支援 ④短期入所(定員5名)
⑤地域障害児支援体制強化事業
対象利用者／①就学前の児童(7歳未満) ②学齢期の児童(6歳以上18歳未満) ③18歳未満の児童 ④当センターの利用者
⑤福井市内在住の方 所在地／福井市大和田1丁目1607 管理者／渡辺 浩基

フレンズみゆき
事業内容／放課後等デイサービス(定員10名)
対象利用者／学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
所在地／福井市御幸4丁目106-2 管理者／渡辺 浩基

フレンズどれみ
事業内容／放課後等デイサービス(定員10名)
対象利用者／学齢期の児童(6歳以上18歳未満)
所在地／吉田郡永平寺町松岡神明1丁目128 管理者／渡辺 浩基

NEXT STEP

地域の中核を担う児童発達支援センターを目指し、多様なニーズのある子どもとご家族への支援を着実に積み重ねてまいります。個別支援計画には子どもの意見表明の視点を位置づけ、その思いを丁寧に聴き取り、結果とともに確認しながら支援に反映していきます。あわせて関係機関との連携を深め、地域に欠かせない存在となるよう取り組みます。

足羽ワークセンター

利用者様自身が生活の中心者となって未来を選択し「働きたい」「自立したい」という夢が実現できるよう支援しています。個別支援計画を基に日常生活を整え、利用者様のニーズや能力に応じた社会経験の場を提供し、目標達成を実感いただけるよう支援しています。

REPORT

1 レクリエーションを充実しました

利用者の皆さんは毎日それぞれの活動場所で頑張っていますが、活動場所が違くと顔を合わせる機会もそんなにはありません。月に一度そんな皆さんが一堂に集まってレクリエーションを楽しんでいます。働くだけでなく余暇も楽しみ、仲間同士顔を合わせて日頃の疲れを癒し合っています。

3 すべての人に
健康を届けよう

2 あすわの実、訪問販売はじめました

あすわの実ではこれまで法人の職員向けの弁当の注文、販売、配達を行ってきましたが、あすわの実をもっと知っていただくための取り組みとして各事業所へ出向いて販売する訪問販売を始めました。いろいろなご意見をいただけるので、今後に活かしながら訪問販売を増やしていきます。

8 働きがいも
経済成長も

3 同法人内事業所の新鮮野菜を使っています

足羽サポートセンターで作った野菜を、今年度はより積極的にいろんなメニューに取り入れています。毎日のあすわの実のお弁当、あすわの木の人気メニュー【ピタパン】などなど、同法人内で協力しながら頑張っています。

17 ひととつながり
目標を達成しよう

DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／就労継続支援B型事業(定員35名)
対象利用者／就労意欲のある障がい者(障がいの特定なし)
所在地／福井市柵野町20-5
管理者／平澤 明

NEXT STEP

飲食・役務の就労支援事業の見直しと整備、利用者様の作業環境の整備に取り組みます。平均工賃40,000円台を確保しつつ、利用者様が出来る作業工程を増やせるよう作業内容の細分化と見直し、利用者様一人ひとりの個性に合った作業が提供できるようにします。
また、本人の『やってみたい』を個別支援計画に反映させるとともに、それを支援できるよう職員の育成にも力を入れています。

足羽サポートセンター

利用者様の「働きたい」という希望を実現し、豊かな社会生活が送れるよう個別支援計画を基にサービスを提供しています。企業での「施設外就労」も実施しており、社会体験活動にて一人ひとりが社会の一員だと感じられるよう支援しています。

REPORT

1 得意なことを活かそう

令和7年10月17日に第18回セルフ総合スキルコンテスト(福井県社会就労センター協議会主催)が開催され、足羽サポートセンターからは「軽作業部門」(カード揃えの部)(封入の部)に4名、「私の短い手紙部門」に4名の述べ8名が参加。その結果「軽作業部門(封入の部)」には加畑裕樹様が福井フェニックスロータリークラブ賞、「私の短い手紙部門」には岩崎紗也加様が準優勝に輝きました。今後も、利用者様が得意とする部門に挑戦し、自信が持てるよう支援させていただきます。

8 働きがいも
経済成長も

2 地域の皆様と共に

足羽サポートセンターは、日之出地区自治会に所属し、同地区は家庭・地域・学校が連携して行う行事が盛んで、幅広い年代にわたって参加者が多いのが特徴です。7月に開催される「ひのでふれあいフェスタ」には3年連続打合せの段階から参加させていただいており、祭りの準備、野菜の販売、後片付け等、地域の方々と共に取り組んでいます。また、11月に行われる「日之出地区ウィークデイ防災訓練」にも参加しています。利用者様と共に一次避難所へ向かい、安否情報の提供を行っています。これらの活動を通じ、地域の中で生きている、育てられていることを実感しています。

8 働きがいも
経済成長も11 住み続けられる
まちづくりを

3 楽しい慰安旅行

昨年度までの研修旅行では、「普段できないことを体験したい」との思いが多かったのですが、今年度は「移動距離が長いと疲れてしまう」という声が多く聞かれました。そこで、近場の県内(若狭地方)でご馳走会席とカラオケ三昧プランが登場しました。最終的に愛知、滋賀、福井(若狭)プランの中から、利用者様の希望をとり、選択されたプランに参加されました。福井のプランを選んだ利用者様からは、「バスの乗車時間が短くて良かった」「乗車時間が短くなった分、観光地で楽しめた」との声が多く聞かれ大好評でした。

8 働きがいも
経済成長も

DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／就労継続支援B型事業(定員40名)
対象利用者／就労意欲がある障がい者(障がいの特定なし)
所在地／福井市米松2丁目6-28
管理者／橋本 裕樹

NEXT STEP

農福連携の取り組みでは、地域の皆様への野菜販売強化に加え、産地直送野菜の通販サイトに登録し、収穫した野菜の更なる拡販を目指します。円安、物価上昇、そして利用者様の高齢化等、受注作業を取り巻く状況は厳しい限りですが、新規取引先開拓により新たな作業にも取り組みます。利用者様の作業意欲を満たせるよう、工賃向上に向けたチャレンジを継続していきます。

パステル

障がいに関して、成人期以降の支援はまだ不十分であると言えます。特に見えにくい障がいについては長い目で向き合うことが大切です。関係機関等と連携しながら、ご本人と支援者との信頼関係をつくり、ご本人やご家族の思いに寄り添いながら支援しています。

REPORT

1

今年度パステル 新規ご契約17名！

今年度、パステルの自立訓練事業、就労移行支援事業、就労定着支援事業を新規でご利用くださった方は、延べ17名でした。パステルが開設されてから最も多い新規利用者様数となりました。パステルの利用者様の目的は様々です。「就職したい」「自己理解したい」「生活のリズムを整えたい」「コミュニケーションがうまくなりたい」「自分の困りごとを解決できるようになりたい」などの目的を達成できるように、職員は伴走させていただきました。



REPORT

2

就職者の会(フレンズの会)、 大阪万博旅行 行ってきました！

9月28日に、足羽福祉会の就労支援を経て就職された皆様の会「フレンズの会」の旅行が実施されました。今回は話題の大阪万博に、就職者の方25名、職員3名で行ってきました。来場者数最大時期の大阪万博は超満員でしたが、さすがは皆さん、たくましくそれぞれに楽しんで、お土産も買って、最後には全員揃って帰ってくることができました。「話題の万博に行けてよかった!」、「なつかしいみんなと再会できてよかった!」と喜びの声が聞かれました。



REPORT

3

パステル地域公開講座 「若者の自立を応援しよう」開催！

今年度も、2回の地域公開講座を開催しました。パステル利用者様と共に、ご家族、地域の皆さん、支援者や学校の先生にご参加いただきました。1回目の11月8日は「パステルの皆さんが目指す自立のかたち」をテーマに意見交換をしました。2回目の2月21日は「やっぱり仕事だ」をテーマに、パステルの支援を経て就職された方々のお話をお聞きました。会のコーディネーターもパステル利用者様が担ってください、お話がはずみました。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／自立訓練(生活訓練)事業(定員14名)、
就労移行支援事業(定員6名)、就労定着支援事業、就労選択支援
対象利用者／地域での自立した生活や就労を希望する障がい者(障がいの特定なし)
所在地／福井市御幸4丁目1806
管理者／橋本 裕樹

NEXT STEP

パステルで自立を目指して日々取り組まれる利用者様のチャレンジや思いが、次に続く方々に届くように、地域公開講座やSNS発信を行っていきます。パステルの利用者様と共に、企画運営していきます。みなさまのご参加をお待ちしております。

スマイル

障がい福祉サービスの生活介護事業として、利用者様の日中活動では、事業所内での軽作業や創作活動、屋外での社会体験活動や研修旅行などさまざまな活動があります。軽度～重度まで利用者様一人ひとりの可能性を求め、意思決定の場を通してニーズに合った活動提供のお手伝いをしています。

REPORT

1

利用者様の『やってみたい!』を 尊重したイベントの開催

今年度は、『新幹線に乗ってみよう』をコンセプトに、北陸新幹線に乗って富山を目指して旅行をしました。福井を出発し停車駅の度にドキドキする利用者様や、車窓から見える風景に「家の前を通った」とつぶやく利用者様も。新たな体験への挑戦に、発見と笑顔いっぱいの記憶に残る旅行になりました。



REPORT

2

みんなが笑顔で健康に楽しい イベントの開催

スマイルでは軽運動などを実施しています。福井県スポーツ推進委員の方を招いての「スカットボール」や、講師を招いて「ミュージック・ケア」を開催しています。音楽に合わせて自然に体が動きだす利用者様や、鳴子や鈴の音を楽しむ利用者様、体育館など広い場所で軽運動をして心身をリフレッシュ。個々に合わせた発散の時間を提供していきます。



REPORT

3

あたたかい汁物で ほっと一息の提供

毎週2回は昼食に汁物を提供しています。合わせて、月1回は「スペシャル汁物」として、夏には「冷製スープ」、冬には温かい「けんちん汁」など、スープの香りが部屋に広がり『今日は何?うれしい!』と声が上がります。毎日の楽しみである食事に工夫の一品を添えることで、笑顔が増え一日の活力にもつながっています。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／生活介護(定員数30名)
対象利用者／重度の方で余暇活動や創作活動、
軽作業等を通して生きがいをつくりたい方
所在地／福井市和田東1丁目2105
管理者／恵美 浄文

NEXT STEP

スマイルでは『意思決定』をキーワードに、利用者様に『選択』の機会をさまざまな場面や内容で提供しています。来年度は、「食」に関する充実を図るべく、汁物を「選択」する機会や、温かいご飯をおひつからお茶碗によそって提供することで、家庭的な雰囲気づくりを目指してひと工夫します。また、健康維持や元気な身体づくりとして、外部講師を招いた軽運動や社会体験活動など外出を少人数制にすることで、重度の方に合わせた提供や、個々のペースに合った提供など、お一人おひとりに合わせた活動としていくことで満足度の向上を図ります。

カラフル

障がい福祉サービスの生活介護事業所として、主に高齢の方や重度障がいの方の日中活動において健康でリズムある充実した生活づくりに取り組んでいます。特に、地域に出向く活動に力を入れており、散歩でのあいさつや駅舎の清掃、ボッチャ交流など利用者様と地域との「笑顔」のつながりが生まれています。

REPORT

1

利用者様の「思い」を尊重した
意思決定支援の推進

10月の旅行では、北陸新幹線「つるぎ」に乗って利用者様の興奮は最高潮！新幹線に乗れた喜び、富山に向かう意気込みで、車内では上下左右を見渡されていました。いよいよ昼食会場に到着、沢山の富山名物に何から食べようか迷いつつ、しっかり完食されていました。見学先の「ほたるいかミュージアム」では、班ごとで思い思いに過ごされ、海を眺める班、ほたるいかソフトクリームを食べる班など、思い出いっぱいの日となりました。



REPORT

2

みんなが健康に笑顔で
過ごせるようにイベント参加

カラフルには高齢の利用者様がたくさん利用されており、年を重ねるごとに今まで通りに身体が動かず、怪我につながるリスクが増えてきます。しあわせ福井スポーツ協会の方のご協力をいただき、「ボッチャ」や「スカットボール」、「卓球バレー」や「風船バレー」などを通じて、楽しみながら身体を動かす機会を増やしています。利用者様からは「今度、いつするの」「またやりたい」と楽しみにされる言葉を伺っています。これからも健康維持をテーマに取り組んでいきます。



REPORT

3

地域に根差した事業所づくりを目指し、
地域と創る「共生のまちづくり」交流

福井県スポーツ推進委員と東藤島地区の方々の協力のもと、楽しみながら身体を動かす機会を兼ねた「スカットボール交流」を行いました。当日は地区のお年寄りや、さくらんぼ児童クラブの子どもたち、そして公民館職員など総勢70名の参加となりました。お互い緊張する様子もありましたが、交流が進むに連れハイタッチをする場面など笑顔が増えていきました。参加された方からは「年齢や障がいに関係なく、楽しく参加できた」「これからも続けてもらいたい」など感想をいただきました。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／生活介護、共生型通所介護（定員30名）
対象利用者／高齢や重度の方で軽作業や創作活動を通して
生きがいをつくりたい方
所在地／福井市林町62-3
管理者／恵美 浄文

NEXT STEP

「カラフルで活動したい」という利用者様のニーズに応えるため、介護認定を受けた方も参加できます。理学療法士配置のもと、利用者様お一人ひとりの健康増進や、ADL能力維持向上につながる活動への取り組みや、ご家庭で入浴が困難な利用者様への入浴支援を提供します。そして、開かれた事業所となるよう、地域交流や地域発信を重点項目とした活動に力を入れていきます。重度障がい者から高齢の方まで、元気に活躍できる場の提供を通して、笑顔あふれる事業所づくりを目指します。

あすわ相談支援
事業所リアン

障がいのある方の就学、進路、住まい探し、地域移行への対応などについて、ご本人やご家族などの相談に応じさせていただきます。その中で、情報提供やサービスの利用に関する支援を行い、関係機関と連携して利用者様が望む暮らしの実現に向けて取り組みます。

REPORT

1

関係機関との連携の大切さ
～日々の業務・経験の中から～

私たち相談支援専門員の主たる業務は、障がい当事者の方やその家族様等から福祉サービス利用等の相談を受け、サービスにつなげ、その後の状況や確認、さらなるご相談を受けることです。地域や関係機関の皆様からのご相談やご依頼を受け、講演会、研修会、勉強会等の講師や助言者として出向くこともあります。制度やテキスト等から学べないこと、実践の中から活かされること等をお互いの学びの場として協力させていただいています。関係機関の皆様と研修会を開いたり、学びの場を持つことは、私たち相談支援専門員としても地域の皆様の生の声をお聞きできる貴重な機会ともなっています。教育、医療、労働等、お互いの文化や価値観を理解しながら、今後もお誘いや協力依頼があれば、喜んでお引き受けしたいと思います。

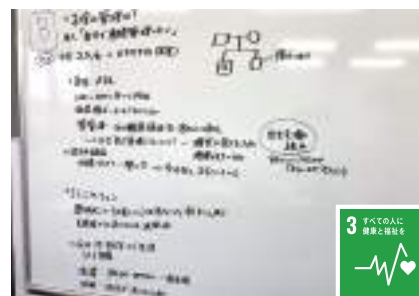


REPORT

2

ライフステージのつながり
～成人期から高齢期を連続的・継続的に考える～

障がい利用者様は、原則65歳を迎えると、介護保険サービスの利用を推奨されています。足羽福祉会においては、利用者様自身および家族様が困らないよう、またスムーズな移行ができるように、まずはつなぎ役である相談支援専門員と受け手役の介護支援専門員が定期的にケース検討や制度学習をしています。今年度は具体的なケース事例を検討しつつ、お互いの知見を深めました。顔の見える関係性こそが、引いては利用者様支援の根幹と感じています。



REPORT

3

さまざまな地域移行に対応して
～利用者様の安心・安全そして快適な暮らしを目指して～

施設入所からの退所、精神科病院等からの退院、矯正施設からの退所、グループホームからの単身生活移行等、地域移行と言ってもさまざまなケースがあります。しかし、どの場合でも利用者様にとって環境（人・場所・時間等）が変わる心配・不安・緊張等は少なからずあると思います。現在、移行した7名の利用者様を地域定着支援として定期相談・定期訪問、緊急時（病気、地域トラブル、各種行政手続き等）支援等を行い、より快適な地域生活のサポートをしています。安心があるからこそ、アパートで調理をしたり好きな趣味に没頭できたり、更なる希望や夢が生まれています。より良い地域移行を促進しつつ、できるだけ多くの利用者様に地域生活の楽しさや地域の一員としての役割を担っていただけたらと思います。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／計画相談支援、障害児相談支援、地域移行支援、
地域定着支援
対象利用者／相談支援を必要とされる方（障がいの特定なし）
所在地／福井市米松2丁目6-28
管理者／吉野 拓巳

NEXT STEP

利用者様の相談は、障がい福祉サービスや制度だけでは対応・解決できない時代となってきました。医療制度、児童福祉、介護保険、女性相談、困窮支援、居住支援、多国籍支援、災害等の危機管理支援等、昨今の相談支援の範囲は多岐にわたっており、私たち相談支援専門員は、日々、相談支援業務の中で学んだり関係機関につないだり切磋琢磨しています。より良い相談支援業務として、「相談してよかった」「助かった」「ありがとう」と言ってもらえるwell-being（幸せ）の実現をお手伝いさせていただきます。

足羽更生園

重度の障がいがある方の施設入所支援を中心に、安全安心の支援を提供しています。日中活動では個別の環境調整・小規模グループ化・社会参加の機会充実、暮らしの場では余暇の充実・地域移行支援など、一人ひとりの望む暮らしの実現に向け「共に」取り組んでいます。

REPORT

1 地域に伝わる伝統文化を学ぼう!!

地域課題を探るためには、まずは地域を知ろうと地域へ出向き、伝統文化についての聞き取りを行いました。その中で、地域で作上げた手作りの『酒生ふるさとカルタ』の存在を知り、9月18日の職員会議に酒生公民館長をお招きして、酒生ふるさとカルタ大会を実施しました。カルタは地域で受け継がれている祭り、伝承料理、遺跡などの内容で、私たち職員が知らなかった地区内の伝統に触れる良い機会になりました。

17
パラスポーツで
目標を達成しよう

REPORT

2 地域連携推進会議の開催

令和7年度から開催が義務化された「地域連携推進会議」は、施設と地域との関係づくりや施設の理解促進・支援の質の向上等を目的とした会議です。当園でも6月30日に、5名の外部委員をお招きし、会議を開催しました。第1回目となる今回は、足羽更生園を知っていただく機会として、施設概要や園内での虐待防止の取り組み、事故対応、地域との連携体制などについてお伝えし、その後施設内を見学していただきました。外部委員の方々からは、取り組みに理解をいただくと共に率直なご意見をいただくことができました。

11
読み聞かせの
まちづくりを

REPORT

3 支援の楽しさを
広めるための取り組み

「根拠に基づく支援」を誰もが実践できる職員の育成の一環として、「強度行動障害支援の楽しさを広める会」を発足しました。職員に支援を知ってもらうための取り組み（「支援を楽しもう通信」の回覧）やSNS等を活用した外部に向けた取り組み発信（「支援のつぶやき」）・公開講座の開催、委員会での「はじめての対応ガイド」の作成準備等、利用者様支援を通して職員が感じた思いを共有し、支援の楽しさを広めていくための活動を行いました。

3
すべての人に
通じる福祉を

DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／障がい者支援施設

①施設入所支援(定員60名) ②生活介護事業(定員60名)

③短期入所支援(定員4名) ④日中一時支援(定員5名)

対象利用者／施設支援を必要とする障がい者(障がいの特定なし)

所在地／福井市宿布町19-46-1

管理者／嶋田 富士男

NEXT STEP

- 「答えは利用者様が持っている」をコンセプトに利用者様視点を大切にしながらさまざまな経験を通して各年代に応じたライフスタイルを広げる取り組みを行います。
- 地域移行等意向確認シートを用いたアセスメントを実施し、利用者様を主体としたカンファレンスを通して利用者様の今後のライフステージに応じた支援について取り組んでいます。

あすわ第1／あすわ第2／
あすわ第3

障がいの軽重にかかわらず「地域社会の中で自分らしい暮らしがしたい」という思いの実現のため整備を行ってきました。住まいのある地域社会との交流や社会体験、日中を過ごされる事業所等との連携、充実した生活支援を通して、一人ひとりにとってやすらぎのある「自分の家」となるよう努めています。

あすわ第1

地域に住む住民としての関係性作り

グループホームなどの居住施設では、今年度から地域連携推進会議が義務づけられました。自治会長、近隣住民などの地域の方との意見交換を通して、地域と連携を進める場になります。あすわ第1、第2、第3ともに開催しましたが、あすわ第1たんぼぼでは自治会長や地主さんに参加いただいて、利用者様代表、職員と共に、グループホームはどういうところなのかを見学も含め実施しました。今後も地域に住む住民として、地域に開かれた関係性を作ってまいります。

11
読み聞かせの
まちづくりを

あすわ第2

「グループホーム引越し!」

一軒家で5人で暮らしていたグループホーム「そよかぜ」が5月29日に引越しました。同じ大きさの家を探しましたが見つからず、そよかぜA・B・C（サテライト型）としてアパート3室に分かれることになりました。今までよりも駅に近くて好評です。今までお世話になったお隣とお別れもちゃんと行い、新たな出会いも楽しみです。

11
読み聞かせの
まちづくりを

あすわ第3

夢をかなえるための挑戦

利用者様の「一人暮らしがしたい」という夢を叶えるため、自炊の練習や通院や買い物、金銭管理などがご自分でできるよう、支援を重ねてきました。ご本人の頑張りのもあり、今春にはグループホームを卒業し、一人暮らしに向かって羽ばたいていきます。これからも利用者様の「やってみたい」ことに寄り添い、新たなことへの挑戦をサポートしていきます。

16
すべての人に
通じる福祉を

DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／ 共同生活援助…3事業所(グループホーム17か所)

○あすわ第1…グループホーム6か所(総定員47名)

○あすわ第2…グループホーム6か所(総定員52名)

○あすわ第3…グループホーム5か所(総定員39名)

短期入所

○たんぼぼ短期入所(定員2名)

○あすわ短期入所(定員4名)

○ひまわり短期入所(定員2名)

対象利用者／地域で自分らしく暮らしたい障がい者(障がいの特定なし)

所在地／福井市榎野町20-5(代表所在地)

管理者／あすわ第1…藤原 順 　あすわ第2…吉野 拓巳 　あすわ第3…荒川 待子

NEXT STEP

- 本人の願いの実現に向けた、様々な体験の場を提供します。
- 利用者様の求める暮らし方に合わせたグループホームを再編し、あすわ地域全体で連携します。
- 地域連携推進会議の継続開催で、地域とのつながりをより深めます。

愛全園

出かけて安心、過ごして満足、相談にも親切、丁寧なサービスの提供を心がけています。日常の介護はもちろん、健康への看護とおいしい食事には特に気を配っています。さらにこれからは、在宅からご利用の方、入居されている方一人ひとりの状態をしっかり見て、その方に適した生活活動の向上への介護に取り組みます。

REPORT

1 餅つき大会するぞ～！

1月、餅つき大会が盛大に行われました。絶対にお餅つきをしたい！という行事委員の熱意から企画が実現。昔からの習慣を懐かしんで「よいしょ！」とかけ声が飛び交います。デイサービスのある利用者様はこの日のためにお家から割烹着を持参し、張りきって参加されました。つきたてのお餅は安全におしくいただき、あっという間に売り切れました。



3 すべての人に健康と福祉を

REPORT

2 地域を散策
～かつての景色、関係がよみがえる～

愛全園で開催される啓蒙地区写真展に向けて、まだまだ暑い9月上旬、地区の歴史をめぐりながら写真を撮りに出かけました。地区出身の利用者様、「僕らの写真展」の皆様、地域の方々と共に啓蒙地区のお寺や駅をめぐり、改めて歴史を知ることができました。利用者様とかつての知り合いとの再会もあり、人や地域とのつながりを強く感じる日となりました。今後もたくさんの方々と地域を盛り上げていきたいです。



11 働きがいのあるまちづくりを

REPORT

3 働きやすい職場にむけた
介護ロボットの選定

生産性向上推進加算が令和6年度の介護報酬改定で新設されました。これは、介護施設や事業所がICT機器や介護ロボットなどのテクノロジーを導入し、業務効率化や職員の負担軽減を図る取り組みを評価する制度です。7月に高齢部門の職員が富山県の特別養護老人ホームささづ苑を見学し、実際の機器の使用感や職員の働きやすさを聞かせていただき刺激を受けました。現在は、複数の機器の試行を終え、より良い機器の導入にむけて話し合っています。



8 働きがいのある職場を実現

DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／ユニット型介護老人福祉施設(定員60名)、従来型介護老人福祉施設(定員30名)、短期入所生活介護(定員35名)、通所介護(定員25名)、共生型生活介護、居宅介護支援事業所、認知症対応型共同生活介護(定員9名)
対象利用者／65歳以上の高齢者(第1号被保険者)及び40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
所在地／福井市丸山町40-7 管理者／高村 昌裕

NEXT STEP

- 利用者様のやりたいこと、楽しい時間が実現できるよう、アセスメント力の向上に取り組みます。
- 職員の得意分野に対するチャレンジ意欲を応援します。特に令和8年度はICTやAI活用人材の育成をすることで、ここで働きたいと思える職場作りにつなげます。

足羽利生苑

当苑は、特に認知症高齢者介護を使命としており、満足度の高いサービス提供で介護にかかわっています。安全で親しみやすく家庭的な雰囲気を創造し、親切丁寧、敬愛の念を持ち、利用者様の笑顔や残された能力を引き出し、安心できる暮らしを支援していきます。

REPORT

1 フィリピンEPA候補生、留学生の皆さんと
「激励会」を企画。第3弾!!

引き続き、今年度も愛全園・足羽利生苑・足羽更生園の共に働くフィリピンスタッフの交流会を行いました。去年はそば打ち体験・和紙作り体験を行いましたが、今回の企画も日本の文化に触れてもらおう!ということで、越前陶芸村で陶器創りを行ってきました。みなさん真剣なまなざしで、楽しみながら思い思いに取り組んでいました。一人ひとりの感性が表れたユニークな作品ができました。出来上がりに大満足!



3 すべての人に健康と福祉を

REPORT

2 足羽利生苑デイサービスセンター
共生型生活介護 運営開始

高齢者デイサービスセンターの新たな挑戦として、障がい者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう支援するため、令和7年4月1日より共生型生活介護の運営を開始しました。令和7年度は4名の利用者様が利用されており、給食、介護サービスや訓練、創作活動、生産活動等を行い、心のリフレッシュを図っています。地域共生社会の実現に少しでも貢献し、介護保険と障がい福祉の両方を提供することで、地域ニーズにも柔軟に対応して満足度の向上につながるよう今後も取り組んでいきます。



3 すべての人に健康と福祉を

REPORT

3 本格的に再開した「いこ憩^{いこ}サロン」の
イベント特別企画を催行!

令和7年度、地域の高齢者の方々が「無理なく、気軽に、楽しく、自由に」参加できる当苑独自の地域支援事業「いこ憩^{いこ}サロン」を毎月2回実施してきた中、12月7日「クリスマス会」を開催しました。参加者19名、上位者プレゼント進呈の「棒飛ばしゲーム」やマイオリジナル「ホットケーキ作り」を行い、たくさんの歓声、微笑ましい会話・笑顔が見られました。お帰りの際「たのしかったわあ、また呼んでのぉ」や「こんどから毎月のサロンにも参加してみたい」等のうれしいお言葉をいただき、また成功裏に遂行できたことも職員のモチベーションアップにつながりました。



11 働きがいのある職場を実現

DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／介護老人福祉施設(定員59名)※介護予防、短期入所生活介護(定員15名)、通所介護(定員20名)※福井市日常生活総合事業通所型A型・通所型予防給付相当含む、共生型生活介護、地域密着型介護老人福祉施設(定員18名)
※介護予防、認知症対応型通所介護(定員12名)、居宅介護支援事業
対象利用者／要支援・要介護高齢者
所在地／福井市梅野町20-7 管理者／藤田 有美

NEXT STEP

- 令和7年度までに取り組んできた地域の方々とのさまざまな活動を通して相談・協力できる関係を強化し、頼られる施設を目指します。
- 利用者様一人ひとりの生き生きと安心した生活のために、ご本人の意思をより尊重することや認知症の方のアセスメントに力を入れます。

グループホーム 美山

「美山で育ち、美山で暮らす…」利用者様の想いに応えるため、2つの事業で地域での生活を支援しています。特に「地域と共に」を念頭に置き、「地域に出向く」「地域を招く」の双方向の交わりを大事にし、「地域密着型施設」として地域に信頼される施設を目指しています。

REPORT

1 職員では、できないこと...

グループホーム美山では、重度の認知症で、なかなかコミュニケーションが取りずらく、また、身体的にも不自由な方が何名かおられます。そして、毎年、たくさんのボランティアの方々にお越しいただき、利用者様と楽しんでいただいております。その中で、ある地域の盆踊りボランティアの方が来られて、踊りを披露した時の出来事です。無関心で重度の認知症の方が、突然、笑顔で、不自由な体で踊りだしたのです。更に、普段、無表情の利用者様も、涙をポロポロ流し、感動されていました。私たちは、利用者様を理解する努力はしておりますが、利用者様の当時の記憶を鮮明に蘇らせることは難しいです。改めて、ボランティア様の力はすごいと思うと同時に、職員にとっても「利用者様を知る」という新たな一面に触れた貴重な体験になりました。



REPORT

2 利用者様と共に職員も楽しむ

猛暑の中、7月に総勢70名が参加した夏祭りを開催しました。利用者様はもちろん、ご家族、ボランティア、民生児童委員そして啓明児童クラブの子とも達も参加してのイベントでした。職員も、地域の方々と交流で、祭りを盛り上げると共に、参加者全員が笑顔で楽しんでいました。そして、職員の中には、久しぶりに会う地域の方と喜びあう姿も見られ、地域の方との信頼関係も築けました。その他にも、地区敬老会や美山そば祭りと同時間開催の美山地区文化祭にも利用者様、職員が呼ばれ、職員の太鼓演奏を披露させていただきました。更に、FM福井様のラジオ公開収録もあり盛りだくさんの1年でした。グループホーム美山のモットーである『利用者様と共に職員も楽しむ』ことが、今回も実現できました。



REPORT

3 ご家族様、地域の方との意見交換会

12月にグループホーム美山で年末の大掃除を行いました。天気にも恵まれ、地域の方やご家族、更には、オレンジカフェ参加者で総勢28名の方にご協力いただきました。掃除をしながら、施設の中や、職員の介護を行っている様子を観察されているようでした。清掃後は、皆さんと職員との意見交換会を開き、簡単な食事を取りながら和やかな雰囲気で行うことができました。その中では、認知症の症状のことから美山地区の高齢化の問題まで幅広いお話ができました。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／認知症対応型共同生活介護(定員9名)、
小規模多機能型居宅介護事業所(定員29名)、
その他緊急時対応短期利用(各1名)、共生型生活介護・短期入所
対象利用者／要支援・要介護高齢者
所在地／福井市美山町6-1
管理者／蟻塚 光男

NEXT STEP

グループホーム美山は、地域に根ざした、地域に開かれた施設です。利用者様一人ひとりが地域住民であり、地域とのつながりを大事にしております。来期も様々な地域課題に取り組み、更に、安心、安全な施設づくりを目指して、地域の方々と防災への取り組みも積極的に取り組んでいきます。

福井大東包括支援センター

(ほやねっと大東)

地域にお住まいの高齢様が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、さまざまな困りごとに対して「主任ケアマネジャー」「社会福祉士」「保健師」などが中心となって、互いに連携をとりながら「チーム」として総合的に支援を行っています。

REPORT

1 医療と介護の連携ケア会議 ～身寄りのない方の意思決定支援について～

超高齢社会の中で、身寄りがなく頼れる親族がいない・認知機能の低下がみられる高齢者が増え、本人の思いを尊重した意思決定支援の重要性が高まっています。そこで「入退院時の身寄りのない高齢者の意思決定支援」をテーマに、医療ソーシャルワーカーやケアマネジャーなど多職種で意見交換を行いました。本人の価値観やこれまでの人生で大切にしてきたことをどのように共有し、連携につなげるかを皆で考える機会となりました。



REPORT

2 認知症理解普及月間の取り組み

9月は認知症月間、9月21日は認知症の日と定められており、本人と家族が安心して暮らせるように、地域づくりを目的とした啓発イベントや、オレンジ色のライトアップが全国で実施されます。当事業所でも、地域の認知症サポーターや関係機関と連携し、相談コーナー・各種測定・パネル展示・資料配布などの普及活動を毎年行っています。参加者同士が交流し、体験や思いを共有することで、偏見のない支え合いの大切さを再確認する機会としています。



REPORT

3 地域の健康課題への働きかけ

昨年度に引き続き、東藤島地区にて高血圧予防に関する介護予防教室を行いました。高血圧の割合が高い地域に対して減塩教室を実施し、普通の味噌汁と減塩味噌汁の飲み比べや塩分チェックシートの記載を体験してもらいました。日頃の自分自身の塩分摂取量を知ること、思っていたより塩分を摂取していたなどのお声が聞かれ、減塩への意識づけをすることができました。



DATA

令和8年4月1日現在

事業内容／地域包括支援事業、介護予防支援・介護予防ケアマネジメント事業
対象利用者／地域住民 65歳以上の高齢者(第1号被保険者)および
40歳～64歳までの医療保険加入者(第2号被保険者)
所在地／福井市丸山町40-7 愛全園3F
管理者／北川 理恵

NEXT STEP

「地域に寄り添い、気づき、つなぐ 支援を」
引き続き、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、地域の身近な相談窓口としての役割を充実させ、地域に出向いた実態の把握を通じて早期発見、早期支援につなげていきます。